

「今後さらに取り組むべき課題について」
～新産業戦略協議会（ものづくり）での議論より～

平成 2 8 年 3 月 7 日
新産業戦略協議会
座長 安井 公治

「新たなものづくりシステム」の実現に向けて、サプライチェーン全体をカバーしたものづくりシステムのプラットフォーム構築と官民連携による実証の推進が必要であるとの認識が示された。

これに基づき、協議会内の議論にて、以下の提案があった。

- システム全体像の策定

- ✓ 製造だけではなくマーケティングからサービスまで全てのバリューチェーンがつながっている「新たなものづくりシステム」の構築が必要

- ものづくりシステムの構成要素の例（協議会で議論中）

- ・顧客の満足を維持するサービスシステム
 - ・グローバル自動受発注システム
 - ・デライト設計（SIP含む）
 - ・マーケティング
- など

「新たなものづくりシステム」のイメージ

現在のシステム

設計～
製造

主に製造プロセス内の
システム間のつながり



新たなものづくり
システム

全てのバリューチェーンが
つながっている

マーケ
ティング

設計～
製造

サービス

サイバー空間

今後さらに取り組むべき課題について

- システム実現のために必要な取り組みの提案
 - ✓ 官民連携での実証プラットフォーム構築が必要
 - ✓ 大手、中核企業も参画する官民連携体制の推進
 - ✓ 必要なシステム構成要素をインテグレートする人材・組織の整備
- システムで検証すべきグローバル競争力を発揮可能な差別化技術の提案
(3月7日の新産業戦略協議会で議論予定)
 - ✓ 三次元積層造形技術（平成28年度アクションプラン対象施策）
 - ✓ 高輝度・高効率次世代レーザー技術（同上）
 - ✓ 上記以外の検証すべき新たな差別化技術、など
- 海外システムとの連携（3月7日の新産業戦略協議会で議論予定）
 - ✓ 諸外国との対応窓口となる組織の整備が必要